羅生門さくらまつり

羅生門をまもる会（まつなぎ地区25戸）は、4月30日と5月1日の2日間、「羅生門さくらまつり２０２２」を初めて開催しました。この「羅生門さくら公園」には、ソメイヨシノ、ヨウコウ、カンザンなど11種類、約７００本の桜が植栽されており、４月上旬から５月上旬にかけて楽しめます。

今回のまつりは、新見市の後援や、草間台エコミュージアム推進協議会等の共催を得て、カンザン（八重桜）が見頃になり、通り抜けが楽しめる時期の設定でしたが、今年は例年以上に暖かく、まつり当日には散り始めていました。しかし、市内外から多くの観光客が訪れ、最後のさくら並木を楽しむ姿が見られました。「草間カルスト里山の会」の販売コーナーでは、おこわや新鮮な野菜が販売され、多くの人が買い求めていました。また、両日行われた「羅生門ガイドツアー」も予定以上の参加者があったようです。昨年度認定された「ガイド」による初の試みとして行われ、今後の取り組みについての教訓を得ることができたとのことです。

まもる会では、来年以降もまつりの定期的な開催を計画されており、草間台地区の新たな取り組みが期待されています。

草間公民館長杯ＧＧ大会

5月10日（火）、土橋交流センターグラウンドにおいて、41名の参加で行われました。

※成績は次の通りです。

【総合優勝】福水　真　57打

【男子の部】

①福水　真57打　②藤野浩吉　③服部光三郎　④野手征士　⑤中山義昭

【女子の部】

①中山美恵子59打②西上みす江③清本ヒサ子④檀本祥子　⑤藤井シゲノ

【ホールインワン賞】

・藤野浩吉　・福水　真２本　・大月哲夫　・吉川岸恵　・西上みす江　・小川重子　・檀本祥子

【ホールインワン賞15メートル】

・藤野浩吉　・藤井シゲノ　・藤野英弘２本　・西上みす江　・小川重子　・吉川岩夫　・中山美恵子

優勝トロフィーを受け取る福水真さん

湯川診療所からのお知らせ

4月から湯川診療所勤務となりました、**赤澤英将**と申します。

皆様と心の距離を近づけて診察させていただきたいと考えていますので、何卒よろしくお願いいたします。

【土橋新屋の宝篋印塔】

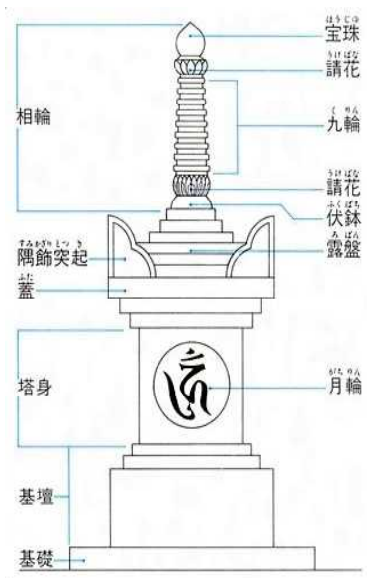
探検ロマン草間台遺産No.134

もとは土橋の室氏の所有でしたが、宗長堅吾さんが譲り受け管理しておられます。丘陵上の畑の中にあり、糖晶質石灰岩の小型の宝篋印塔【写真１】で、基礎の高さ32cm、正面幅32cm、塔身は高さ21cm、幅19cmで、表裏２面に地蔵を刻し、笠の高さ31cm、相輪部分はセメントで補強してあります。宝珠と上の請花は近くに落ちています。【写真２】（九輪と下の請花の部分が見当たりません）小高い所にあるのですが、西方の遠くの山に青龍寺が見えました。近くには門神社の跡があります。宗長堅吾さんは、貴重な宝篋印塔を大切に護っていきたいと言っておられます。

宝篋印塔【左図】はインドで始まり、平安中期にわが国に渡来しました。石造物として完成した形が現れたのは鎌倉時代後期からで、供養塔として建てられました。

【写真１】

【写真２】



短歌

いかさまと話に頷く爺ありき
風に吹かるる郁子の白花　**滑　都**

「ワァーすごい」桜の花の競演に
羅生門訪う人ら感激　**西山富美子**

暗闇の奥の方から人の声
ヒメボタル見物先客のあり　**杉　秀樹**

久方に同期のアルバム開き見る
友皆逝きて吾一人なり　**長岡愛子**

孫曽孫会えぬ淋しさアルバムに
育ち盛りを思い慰む　**中村すみえ**

俳句

恙無く過ぎ行くうまさ蓬餅　**橋本八重子**

千年の樹幹華やぐ桜花　**長田保子**

川柳　題「野」「鳥」

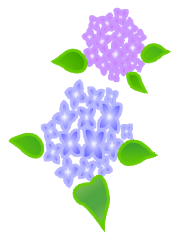
雪降れば野原素適なスキー場
朝まだき雀の声に起こされる　**中村すみえ**

十連休マスクはずして野良仕事
青い鳥探してみたら我が胸に　**笹田　彰**

野を渡る風とデュエットして一樹
群れが飛ぶ中の一羽が青い鳥　**田井芳枝**

野で遊ぶ子供の声も聞こえない
赤い実に小鳥が群れて影も無し　**髙畑文子**

汗流し気分爽快野良仕事
合図してパッと飛び立つ鳥の群れ　**西本八寿江**

野も山も活気われも活気づく
庭に来る鳥の名前もうろおぼえ　**才田茂美**

春が来て一寸見ぬ間に青野原
その昔すずめの巣見た麦畑　**小川久子**